

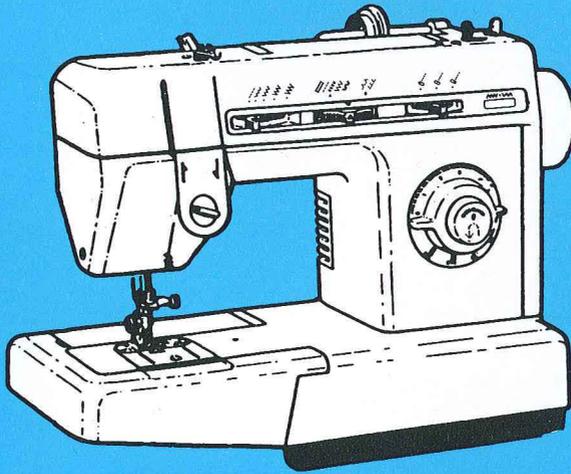
ヌイヌイ

4818

ご使用前に必ずお読みください

n u i n u i

使用の手びき



SINGER

このたびはシンガーミシンをお買い上げいただきましてありがとうございました。このヌイヌイ4818型はホームソーイングに最適な新しいタイプの電子ミシンです。このミシンの特長をご理解していただき、正しくお使いいただくために、まずこの「使用の手びき」をよくお読みください。

「使用の手びき」は保証書と共に大切に保管してください。

安全にお使いいただくために

このミシンを、安全にご使用していただくために、以下のことがらを必ず守ってください。
このミシンは、日本国内向け、家庭用です。 FOR USE IN JAPAN ONLY



警告：感電、火災の恐れがあります。

1. 一般家庭用交流電源100Vでご使用ください。
2. 以下のようなときは、電源スイッチを切り、電源プラグを引き抜いて下さい。
 - ・ミシンのそばを離れるとき。
 - ・ミシンを使用したあと。
 - ・ミシン使用中に停電したとき。



注意：感電、火災、ケガの原因となることがあります。

1. フットコントローラーの上に物をのせないでください。
2. お客様自身での分解、改造はしないでください。
3. ミシンの操作時は、スベリ板、面板などのカバー類を閉じてください。
4. ミシンの操作中は、針元から目を離さないようにし、針、はずみ車などすべての動いている部分に手を近づけないでください。
5. まがった針は、ご使用にならないでください。
6. 縫製中に無理に布を引っ張ったり、押ししたりしないでください。
7. お子様のご使用になるときや、お子様の近くで使用されるときは、特に安全に注意してください。
8. 以下のことをするときは、電源スイッチを切ってください。
 - ・針、針板、押え、アタッチメントを交換するとき。
 - ・ランプを交換するとき。(ランプが冷えてから行ってください)
 - ・使用の手びきに記載のあるミシンのお手入れを行うとき。
 - ・原則として、上糸、下糸を交換するとき。
9. ミシンに以下の異常があるときは、速やかに使用を停止し、お近くの販売店、または各地区「お客様相談係」にご連絡の上、点検・修理・調整をお受けください。
 - ・正常に作動しないとき。
 - ・落下などにより破損したとき。
 - ・水に濡れたとき。
 - ・電源コード、プラグ類が破損、劣化したとき。
 - ・異常な臭い、音がするとき。
10. ミシンは安定した平らなテーブルや机の上でご使用ください。

安全にご使用いただくために

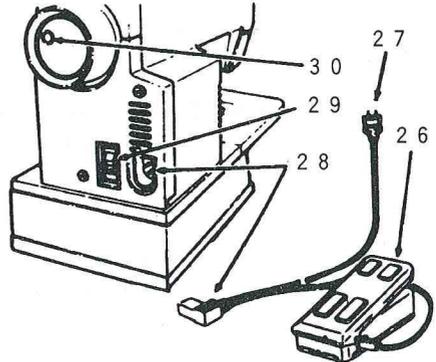
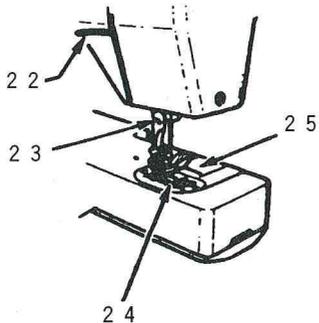
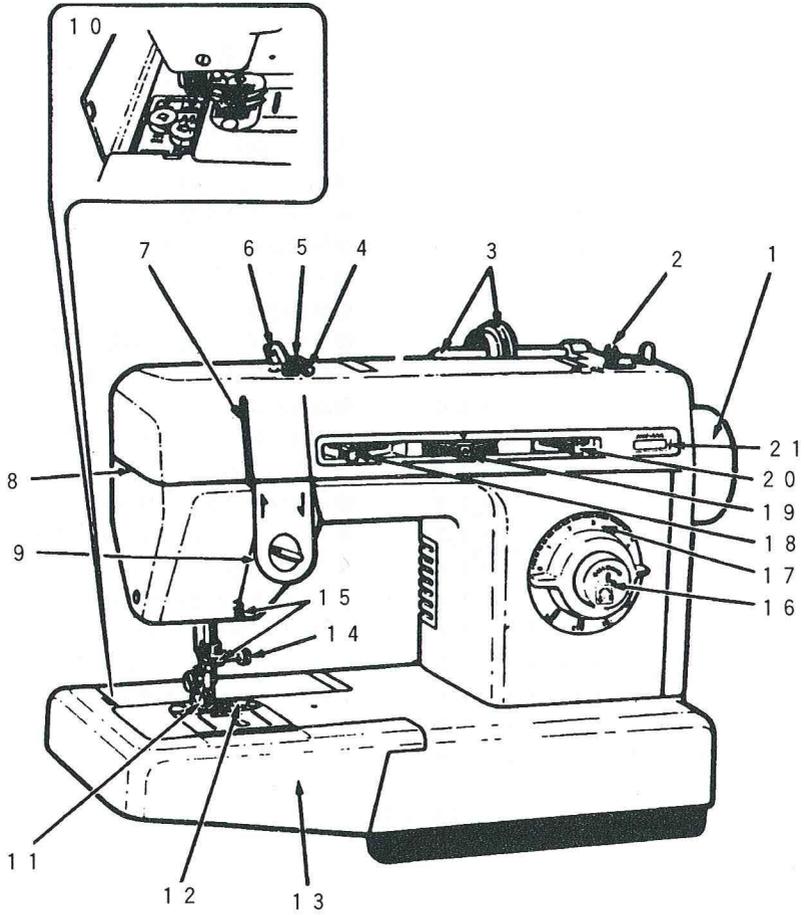
もくじ

- 安全にお使いいただくために・・・表紙裏
1. 各部のなまえとはたらきを
よくおぼえましょう・・・2
 2. 付属品を活用しましょう・・・4
 3. 電源を入れましょう・・・5
 4. 縫う準備をしましょう・・・6
 - まず下糸を巻きましょう・・・6
 - ボビンをセットしましょう・・・7
 - 上糸を正しくかけましょう・・・8
 - 下糸をひきあげましょう・・・9
 - 縫い模様の選びかたと
なまえをおぼえましょう・・・10
 - 針をとりかえるには・・・12
 - 押えをとりかえるには・・・12
 - 針板をとりかえるには・・・13
 - 針と糸と布地の関係・・・13
 5. さあ縫ってみましょう・・・14
 - 基本縫い・・・14
 - 直線縫い・・・14
 - 上糸調子のとりかた・・・16
 - こんな場合は・・・17
 - 縫い線をまっすぐ縫うには・・・17
 - 基本ジグザグ縫い・・・18
 6. いろいろな縫いかた（応用縫い）・・・20
 - 裁ち目かがり・・・20
 - サテン縫い・・・20
 - まつり縫い（ブラインドステッチ）・・・21
 - ファスナーつけ・・・22
 - ボタンホール縫い・・・24
 - 伸縮縫い（ストレッチステッチ）・・・26
 - トップステッチ・・・26
 - 装飾用縁かがり・・・27
 - フリーアーム縫い（筒もの縫い）・・・28
 7. ミシンの手入れ（いつも調子よく）・・・29
 - 面板のはずしかた・・・29
 - 電球の取りかえかた・・・29
 - 針板のはずしかた・・・29
 - すべり板の取りつけかた・・・30
 - ボビンケースのはずし方と入れかた・・・30
 - 掃除と注油・・・31
 8. ミシンの調子の悪い原因と
点検のしかた・・・32
 - ミシンの仕様とミシンの取扱い・・・34
 - シンガーミシン純正部品のご購入方法・・・35

シンガーは皆様に常に最新の裁縫性能を提供するために、必要に応じてこのミシンの外観デザインまたは、付属品を変更することがあります。

Copyright © 1995 THE SINGER COMPANY
All Rights Reserved Throughout The World

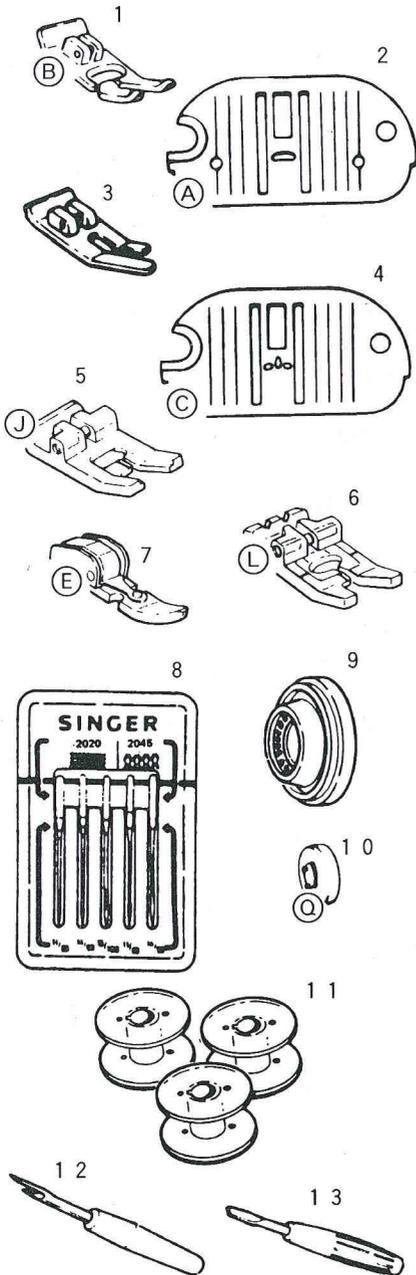
1. 各部のなまえとはたらきをよくおぼえましょう



2 各部のなまえとはたらき

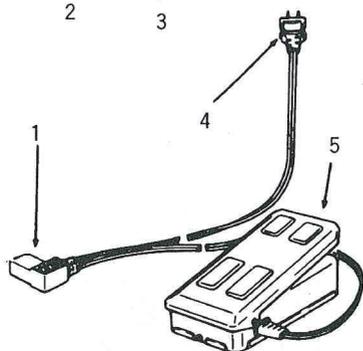
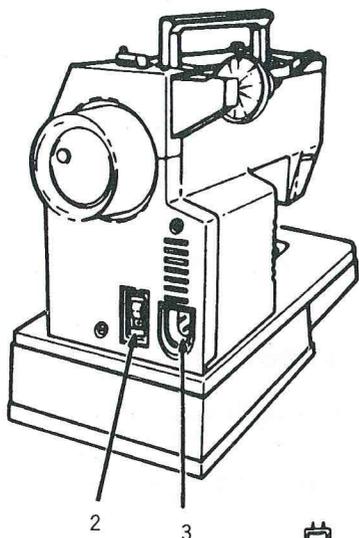
1. はずみ車 (9 ページ)
2. 下糸巻き軸 (6 ページ)
3. 水平糸立て棒と糸巻き押え (6 ページ)
(糸巻きをさしこむ)
4. 糸案内台糸かけ (8 ページ)
(糸を糸調子器に導く)
5. 糸案内台 (6 ページ)
(下糸を巻くときだけかける)
6. 上糸かけ (6 ページ)
7. 天びん (8 ページ)
8. 面板 (29 ページ)
9. 上糸調子ダイヤル (16 ページ)
(上糸調子を調節する)
10. 補用品 (4 ページ)
11. 押え (8 ページ)
12. 針板 (13 ページ)
13. 補助ベッド (28 ページ)
(フラットベッドからフリーアームに変える)
14. 針止めねじ (12 ページ)
15. 糸かけ (8 ページ)
16. 返し縫いボタン (11 ページ)
(おし込んでいる間返し縫いをする。
左又は右に回したときはボタン穴
かがりのバランスを調節する。)
17. 送り調節ダイヤル (11 ページ)
18. 振り幅レバー (10 ページ)
19. 模様選択ダイヤル (10 ページ)
20. 針基線レバー (10 ページ)
(針の基線を変える)
21. バランスコントロールレバー (11 ページ)
(伸縮縫い模様の外観を調節する)
22. 押え上げレバー (8 ページ)
23. 糸切り (15 ページ)
24. 送り歯 (31 ページ)
25. すべり板 (6 ページ)
26. フットコントローラー (5 ページ)
27. 電源プラグ (5 ページ)
28. ミシンプラグ (5 ページ)
(フットコントローラーと電源を)
(モーターにつなぐ)
29. 電源スイッチ (5 ページ)
30. 糸巻きディスク (6 ページ)
(ボビンに糸を巻くときおし込む)

2. 付属品を活用しましょう

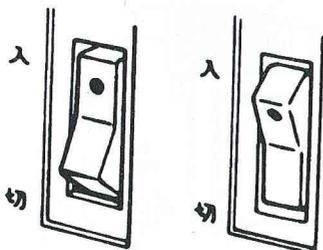


1. ジグザグ押え (B) (ミシンについています)
直線縫いおよびジグザグ縫いに使用します。
2. ジグザグ針板 (A) (ミシンについています)
直線縫いおよびジグザグ縫いに使用します。
3. 直線用押え
特に薄手の布地又はニット化織地の直線縫いに使用します。
4. 直線用針板 (C)
特に薄手の布地又はニット化織地の直線縫いに使用します。
5. サテン押え (J)
装飾およびジグザグの裁縫に使用します。
6. ボタンホール押え (L)
4ステップボタン穴かがりに使用します。
7. ファスナーつけ押え (E)
ファスナーつけと芯入り縫い目に使用します。
8. 針バック
各種タイプの布地に使用できる針が入っています。
9. 糸巻き押え (大) (ミシンについています)
各種サイズの糸巻きに使用します。
10. 糸巻き押え (小) (Q)
小さい糸巻きに使用します。
11. 透明ボビン (シンガー専用)
糸の量を容易に見ることができます。
12. シームリッパー
ボタン穴を切り開くときに使用します。
13. ねじ回し

3. 電源を入れましょう



電源スイッチ



ミシンに電源が入りミシンランプが
つきます。

電源が切れミシン
ランプが消えます。

⚠ 警告：感電、火災を防ぐために；

ミシンを使用しないときは、必ず電源スイッチを切り、フットコントローラーの電源プラグもコンセントからはずしておいてください。

フットコントローラーは落したり、座ブトンの下において使用しないでください。

フットコントローラーを接続するときは、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。

〈電源のつながりかた〉

- プラグ (1) をソケット (2) に差し込み、電源プラグ (3) をコンセントにつなぎます。

〈ミシンの始動〉

- 電源スイッチ (4) (ランプがつかます) を入れ、フットコントローラー (5) を踏むとミシンが動きます。

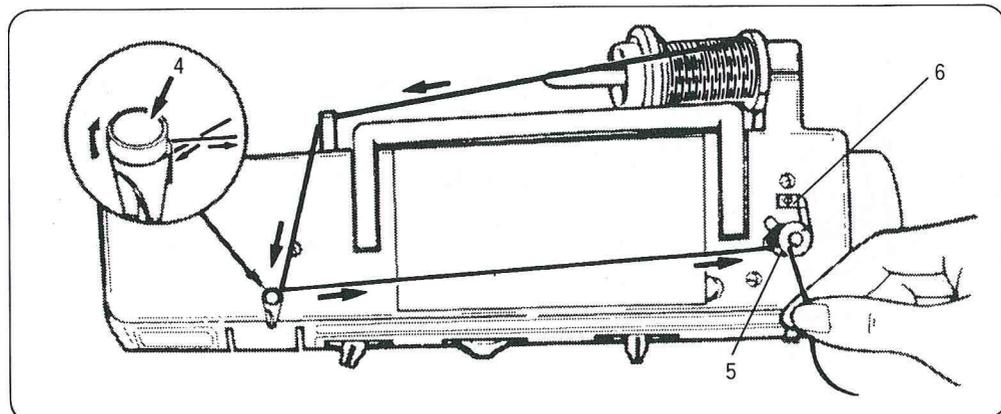
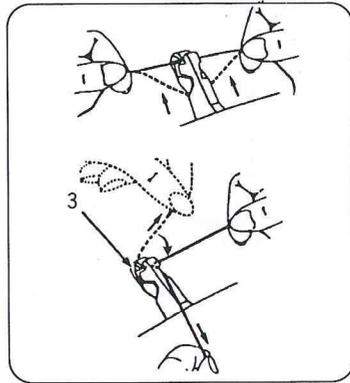
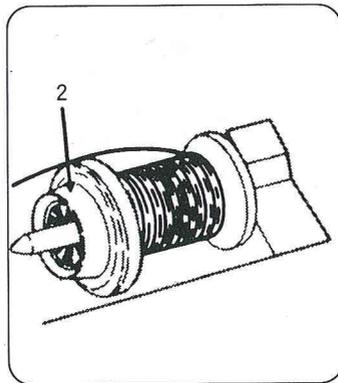
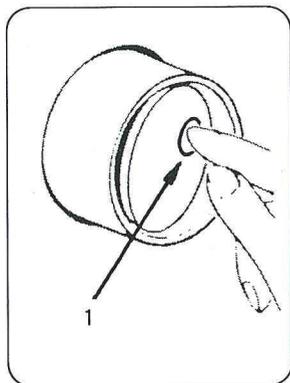
かるく踏む ————— スピードおそい
ふかくふむ ————— スピードはやい

- 万一、裁縫中にミシンが止まり、モーターがうなるようなときは、電源スイッチを切ってください。
- 押えの下に布地を入れないでミシンを運転してはいけません。
- コントローラーは必ずシンガー指定のものをお使いください。

4. 縫う準備をしましょう

まず 下糸を巻きましょう

- 糸巻きディスクのくぼみ（1）をつよくおします。
- 糸巻きを水平糸立て棒にセットします。糸巻きに切りみぞがあるときはそれを右側にして糸立て棒にさしこみ、糸巻き押え（2）でしっかりおさえます。
(切りみぞが左側になると糸切れの原因になります。)
- 上糸かけ（3）にかけます。
- 糸案内台（4）に図のようにかけます。
- すべり板をひらいてボビンを取りだし、糸の先をボビンの上側のつばの穴に内側から通し、ボビンを下糸巻き軸（5）にさしこみます。
- ボビンを右へおしつけ、ボビン押え（6）に固定します。
- 図のように糸の先をもってミシンを運転し、巻きはじめます。少し巻けたら糸はしを切りすて、巻き続けます。糸が適量巻けると、ボビンは自動的に止まります。
- ボビンを左へ押しボビン押えからはなし、糸を切ります。
- ボビンを下糸巻き軸からははずします。
- 糸巻きディスクのくぼみ（1）と逆の面をおして平らにもどし、縫いの状態にします。



ボビンをセットしましょう

シンガー専用ボビンをご使用ください。

1. 糸はしをボビンから10cmほど引き出して
おき、図のように糸がボビンの左から出る
ようにしてボビンケースに入れます。

2. ボビンをかるくおさえて、糸をボビンケー
スの切りみぞ (1) にかけて左にひっぱり、
切りみぞ (2) にかかけます。

●ボビンはボビンケースの中で左回転しま
す。

3. ミシンの後方へボビンを横切って糸を出し
ます。

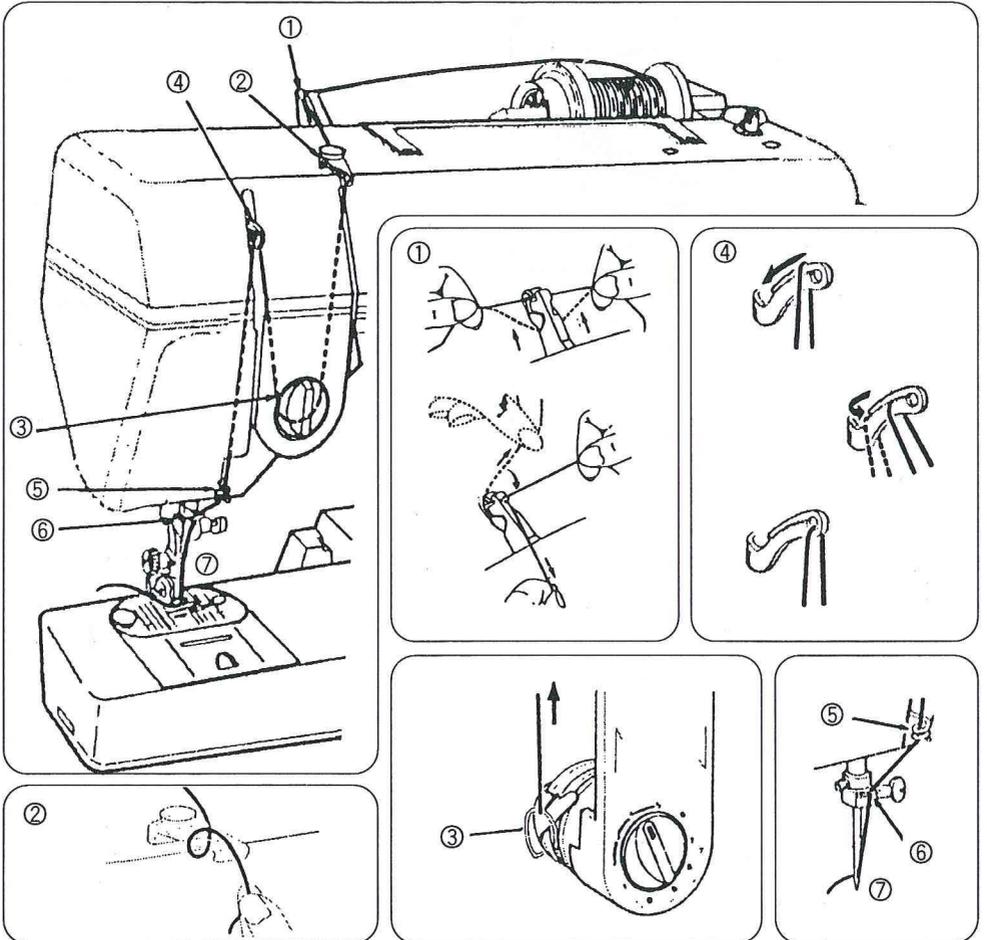
4. すべり板をしめます。

上糸を正しくかけましょう

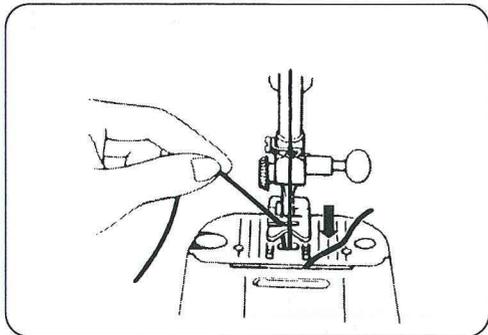
上糸をかけるときは、押え上げレバーで押えを上げ、天びんは一番上まで上げておきます。糸巻き糸の糸を図の ① ~ ⑦ の順に正しくかけてください。

- ① 糸巻きから糸を出し上糸かけ ① に図のようにかけます。
- ② 糸案内台糸かけ ② にかけてます。
- ③ 溝に沿って糸をを引き下げます。次に糸かけ ① と ② の間で糸を押さえ、矢印の通りに左側の溝に沿って糸を十分に引き上げて糸取りばね ③ の中に糸をかけます。
- ④ 図のように天びん ④ に糸をかけます。
- ⑤・⑥ 各糸かけに糸をかけます。
- ⑦ 針穴 ⑦ に前から後に通し、糸はしを10cmほど引き出しておきます。

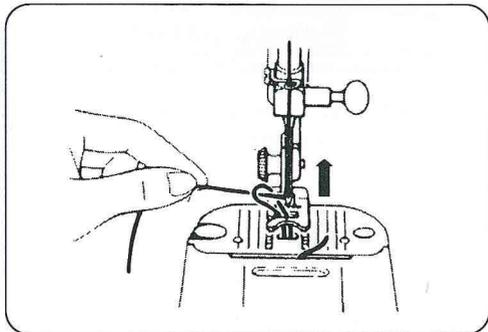
●糸のかけかたがまちがっていると縫えませんから正しくかけてください。



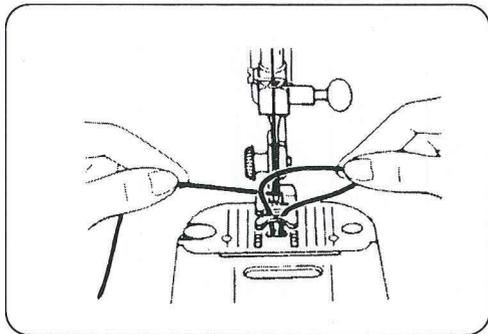
下糸を引き上げましょう



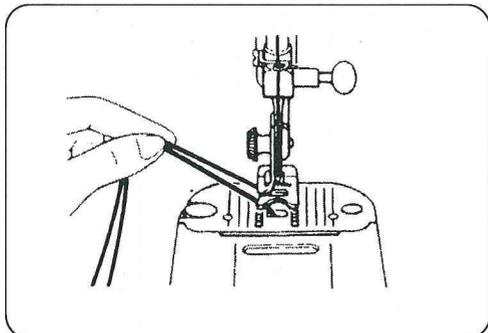
1. 上糸のはしを左手でかるく持ち、はずみ車を手前に一回転させます。



2. 上糸を引き上げれば下糸の輪がついて出てきます。



3. 下糸の輪を指でひろげます。



4. 押えの左側の切りみぞを通して上糸を引き出し、上糸と下糸をそろえて押えの下から向こう側へ引き出します。

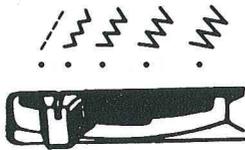
縫い模様の選びかたとなまえをおぼえましょう

⚠ 注意：ケガ防止のために；

模様選択ダイヤルを回すときは、必ずミシンを止めて針を布地から上げてください。(針が折れ、ケガをする原因となることがあります)

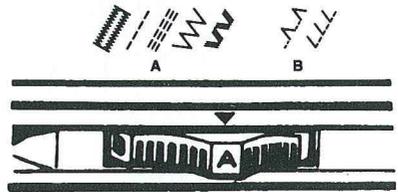
振り幅レバーと模様選択ダイヤルをお望みの模様に合わせましょう。

振り幅レバー



直線縫い (/) 以外のお望みのところに合わせて縫い模様の幅を変えます。

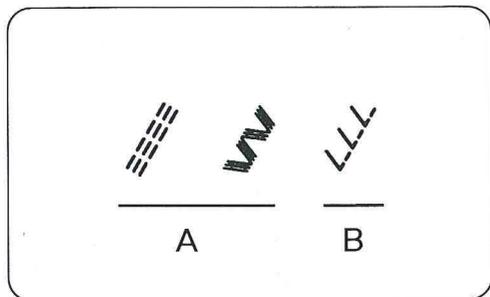
模様選択ダイヤル



お望みの模様に合わせて模様を選択します。
振り幅レバーを直線縫い (/) に合わせてから模様選択ダイヤルを動かしてください。
動かしやすくなります。

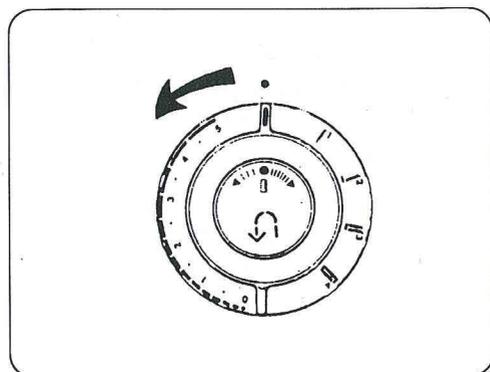
模 様							
	A			B			
模 様	ボタンホールステッチ	直線ステッチ	ストレッチステッチ	ジグザグステッチ	リックラックステッチ	ブライインドステッチ	スラントオーバーエッジステッチ
用 途	ボタン穴かがり	普通の直線縫い	伸縮性のあるフラットな縫い目、つくり縫い、補強縫いなど	普通一般のジグザグ縫い、裁ち目がかり、アップリケ、ボタンつけ	衿、袖口、前立てなどの補強縫いなど	まつり縫いやシエルタックなど	セーターや水着の縫製、バルキニットや伸縮テリ織地のはぎ合わせなど

伸縮縫い模様



左ページの縫い模様の中、左の3つが伸縮縫い模様です。

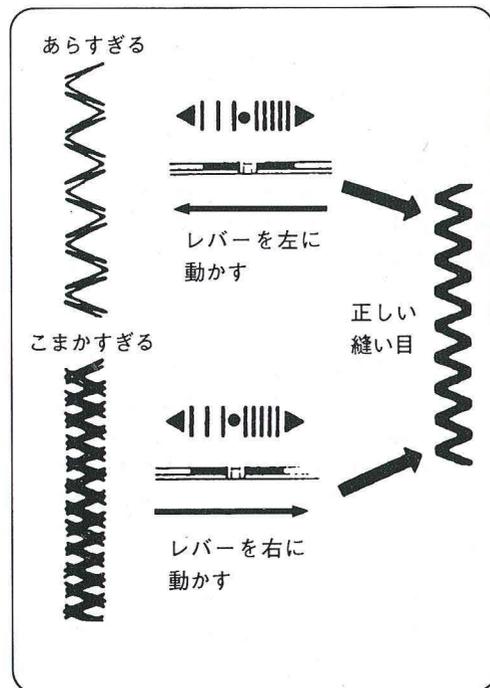
●伸縮縫い模様は低速で縫うことをおすすめします。



〈送り調節ダイヤルの合わせかた〉

ダイヤルを左に回してダイヤルの■印を本体の●印に合わせます。

次に、返し縫いボタンを押すと、伸縮縫いの準備は終わりです。



〈縫い目バランスの調整〉

伸縮縫い模様には外観を調整するためにはバランスコントロールレバーを左又は右に動かします。

調整が必要な場合は端ぎれを使って試し縫いをしながらバランスコントロールレバーを必要なだけ動かしてください。

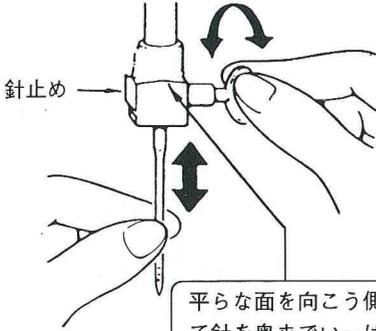
●縫い目があらずぎるときはレバーを左に動かします。

●縫い目がこまかすぎるときはレバーを右に動かします。

針を取りかえるには

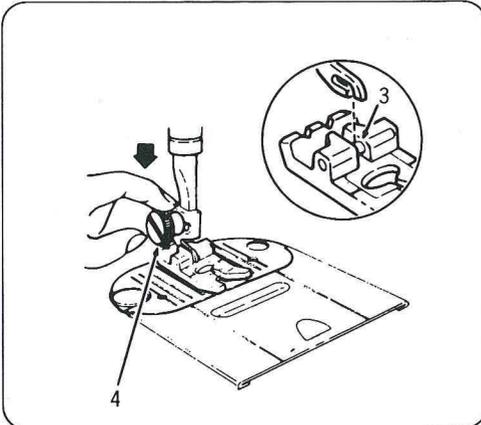
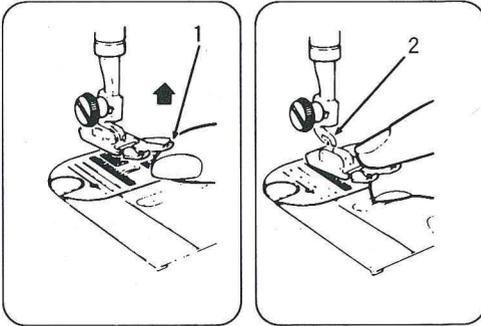
! 注意：ケガ防止のために；
必ず電源スイッチを切ってから行ってください。

- ① 針棒を一番上にあげる。 ② 針止めねじをゆるめ、針を下に抜きます。



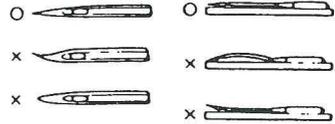
平らな面を向こう側に向けて針を奥までいっぱいにしこみ、ねじをしめます。

押えを取りかえるには



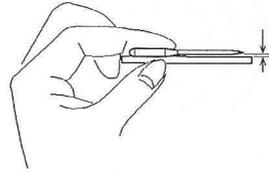
! 注意：ケガ防止のために；
曲がった針や、先がつぶれた針はご使用にならないでください。

取り付け前に針の先をたしかめてください。



〈正しい針の調べかた〉

針の曲がり具合を調べるには、針板など平らな物の上のせ、明るいところですかしてみたとき、針の下側のすきまが針先まで平行に見えるのが良品です。



! 注意：ケガ防止のために；
必ず電源スイッチを切ってから行ってください。

〈取りはずすときは・・・〉

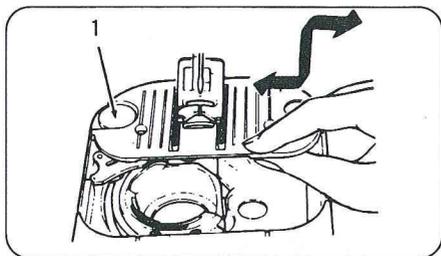
- 針と押え上げレバーを上へ上げます。
- 押えの先〔1〕を指で上へ押しと・・・
- 押えがホルダー〔2〕からはずれます。

〈取りつけるときは・・・〉

- 押えのピン〔3〕がホルダーの真下にくるように押えを置き、・・・
- 静かに押え上げレバーを下げ、ホルダーのみぞとピンをあわせした後押え止めねじ〔4〕を下へつよく押しとカチンとはまります。

! 注意：ケガ防止のために；
押えホルダーは押え止めねじでしっかり締めつけてください。

針板を取りかえるには



! 注意：ケガ防止のために；
必ず電源スイッチを切ってから行ってください。

〈取りはずしかた〉

●手前の右端をもち上げてはずします。

〈取りつけかた〉

●ピン (1) に差し込んで固定します。

針と糸と布地の関係

きれいに縫うためには下表を参考にして、布地に適した針と糸を使用してください。なお、上糸と下糸は普通同じ種類のものを使用してください。

布地の種類	糸の番号	針の番号	縫い目長さ (直線縫い)
薄地——オーガンディー、ジャージー、ポイル、タフタ、絹クレープ、絹布、絹袖	綿 80～100 絹 60～80 化繊糸 80	9～11番	1.5ミリ
普通地——ギンガム、ピケ、リンネル、さらさ木綿、サテン、薄コーデュロイ、別珍、ビニール、ツイール、一般服地	綿 50～60 絹 40～50 化繊糸 50～60	11～14番	1.5～4ミリ
厚地——ギャバジン、ツイード、デニム、カーテン地、ビニール、コーデュロイ、ボンディングなど	綿 30～50 絹 30～50 化繊糸 50	14～16番	2～4ミリ
化繊地や伸縮性の布地——ダブルニット、合わせニット、ナイロン、トリコット、スパンデックス、ジャージなど	綿 40～60 絹 40～60 ニット用糸	11～14番 ニット用針 化繊用針	1.5～3ミリ
一般——装飾用直線ステッチ	綿、絹、化繊糸 20～40	11～16番	1～4ミリ

●直線縫い以外の縫い目長さについては、それぞれの項をごらんください。

! 注意：ケガ防止のために；
針は家庭用ミシン針とご指定の上、お買い求めください。

●針の取りかえかたは、12ページを参照ください。

5. さあ、縫ってみましょう

基本縫い

・・・すべての縫いかたの基本です。正しい使いかたをよくおぼえてください。

●直線縫い

〈ミシンを合わせましょう〉

●模様選択ダイヤル：Aに合わせます。

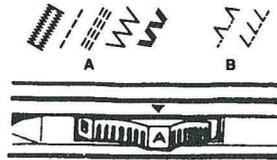
●針基線レバー：

●振り幅レバー：

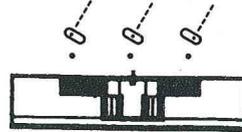
●送り調節ダイヤル：1から5の間で縫い目長さをきめます。

●押えと針板：ジグザグ用の押えと針板を使用しますが、とくに薄手の布地又はニット化織地の裁縫には直線用押えと直線用針板をご使用ください。

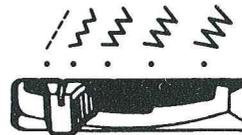
模様選択ダイヤル



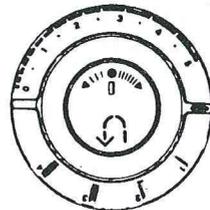
針基線レバー



振り幅レバー



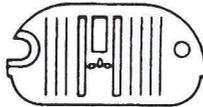
送り調節ダイヤル



直線用押え

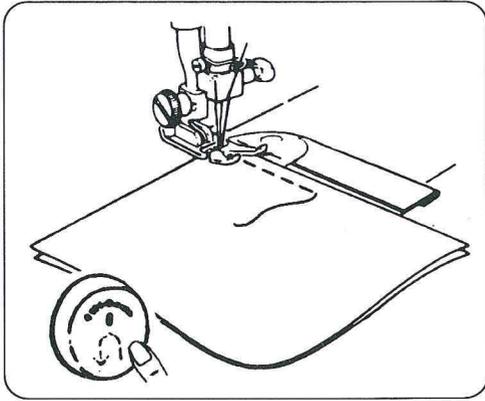


直線用針板



注意：ケガ防止のために；

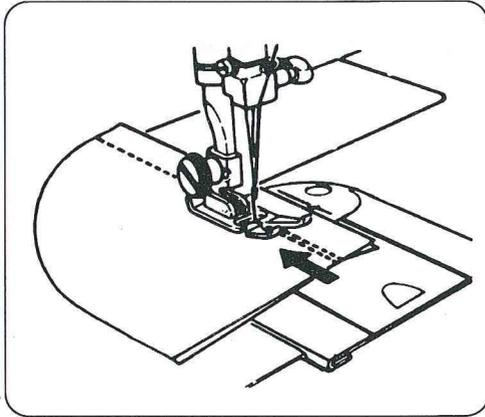
布地は、送り歯の働きによって自然に送られます。無理に引っ張ったり押ししたりせず、手を添えるだけにしてください。



〈縫いかた〉

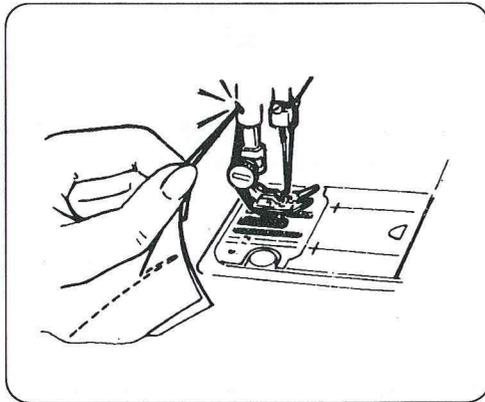
●縫いはじめの返し縫い

上糸と下糸を押えのうしろ側にひき、返し縫いの分だけ手前に布地をおき、押えを下げた後、送り調節ダイヤルの中央にある返し縫いボタンを押し込んだまま布はしまで返し縫いをします。



●縫い終わりの返し縫い

縫い終わりに返し縫いボタンを押しして返し縫いをしてからミシンをとめます。



〈布地のはずしかた〉

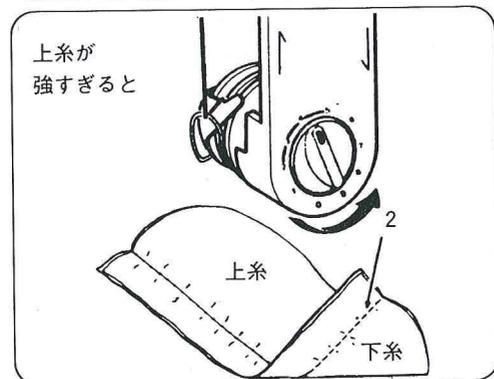
●針と押えを上げ、布地を後に引いてはずし、押え棒の糸切り溝で糸を切ります。

〈上糸調子の取りかた〉

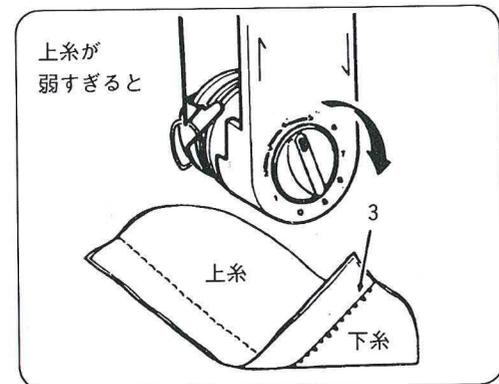
糸調子は布地の厚さや糸の種類によって変わりますから、上糸調子ダイヤルで正しく調節してください。数字の大きい方に回すと上糸の調子は強くなります。



1. 糸調子が正しいときの縫い目
上糸と下糸が同じに見える。



2. 上糸が強すぎるときの縫い目
上糸が布地の表面に直線になる。
下糸が表に出る。
縫いちぢみがある。
●ダイヤルを矢印の方（数字の小さい方）
に回して糸調子を弱くします。



3. 上糸が弱すぎるときの縫い目
縫い目がゆるんで見える。
上糸が裏に出る。
縫いちぢみがある。
●ダイヤルを矢印の方（数字の大きい方）
に回して糸調子を強くします。

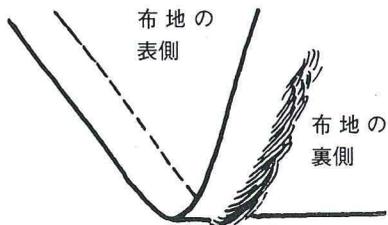
●下糸の調子は工場で正しく調整されているので、ごく特殊な下糸以外は調整する必要はありません。もしどうしても調整が必要な場合、下糸調子を弱めるためにはボビンケースの向って左側の小ねじを左に回し、強めるためには小ねじを右に回します。

〈こんな場合は・・・〉

●布地の内側がタオル地のようなのは・・・

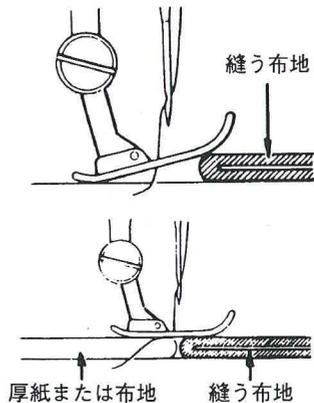
右図のように布地の表側は普通に縫えて、裏側がタオル地のようなのは上糸の調子がよわいか上糸のかけかたがまちがっています。8ページをごらんの上、正しくかけなおしてください。

また、上糸調子の調節のしかたは16ページをごらんください。



●厚地を布はしから縫うときは・・・

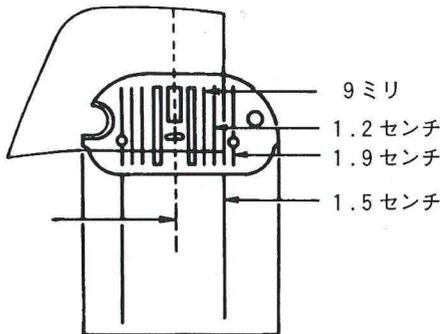
右図のように、押えが傾いて布地がスムーズに送られず、縫えません。このようなときは、使用する布地と同じ厚さの布地または厚紙を押えの下にあてがって縫いはじめてください。



〈縫い線をまっすぐ縫うには〉

ガイドラインの利用

布地のはしを針板のガイドラインに合わせて縫います。数字は針からの距離を示しています。たとえば布はしから1.5cmのところを縫いたいときは布はしを右から2番目の線に合わせて縫います。



●基本ジグザグ縫い

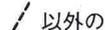
ミシンを合わせる前に、針が上になっていることを確かめてください。

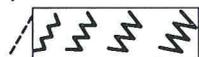
〈ミシンを合わせましょう〉

●模様選択ダイヤル：Aに合わせます。

●針基線レバー：

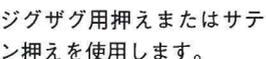
に合わせます

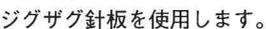
●振り幅レバー： 以外の



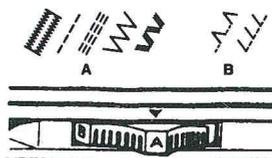
のどれかに合わせます。右の方に合わせるほどジグザグ幅は広くなります。

●送り調節ダイヤル：お望みの位置に合わせて縫い目長さを決めます。0から1の間はサテン縫い（目の細かなジグザグ縫い）ができます。

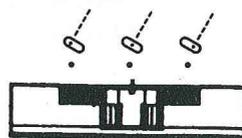
●押え： ジグザグ用押えまたはサテン押えを使用します。

●針板： ジグザグ針板を使用します。

模様選択ダイヤル



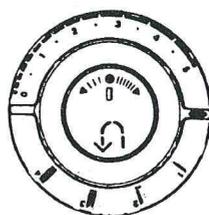
針基線レバー



振り幅レバー



送り調節ダイヤル

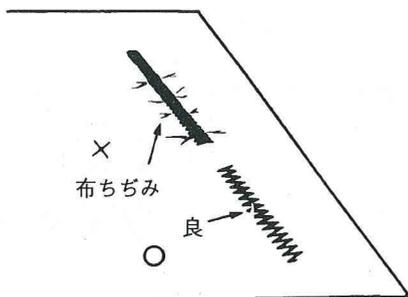


サテン押え

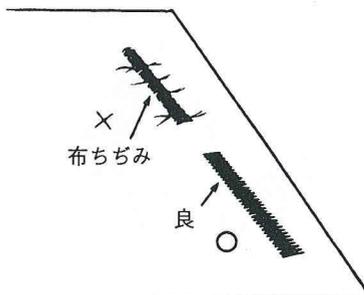


〈上糸調子のとりかた〉

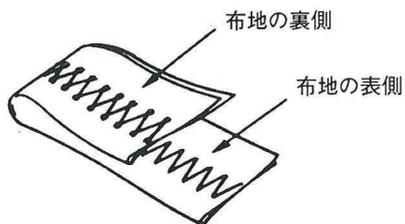
直線縫いのときより上糸調子をやや弱めにしてください。



あら目のジグザグ縫い



こまかな縫い目



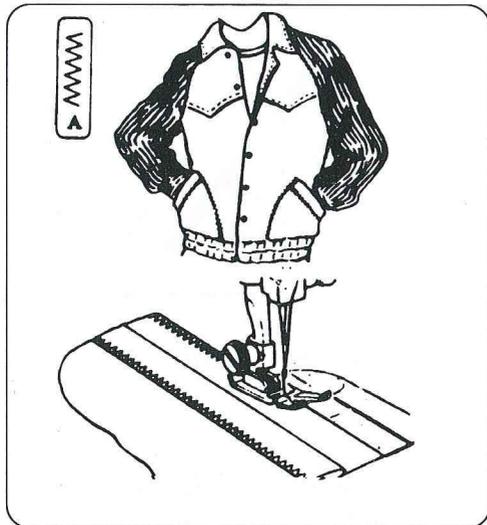
布の裏側に上糸が少し出るくらいに糸調子を調節するときれいに縫えます。

●上糸調子の調節については、16ページをごらんください。

6. いろいろな縫いかた（応用縫い）

裁ち目かがり

ズボン、スカートなどの縫いしろやほつれを防ぐ縫いかたです。裏地をつけない肩、股上股下、袖下などにも利用できます。



〈ミシンを合わせましょう〉

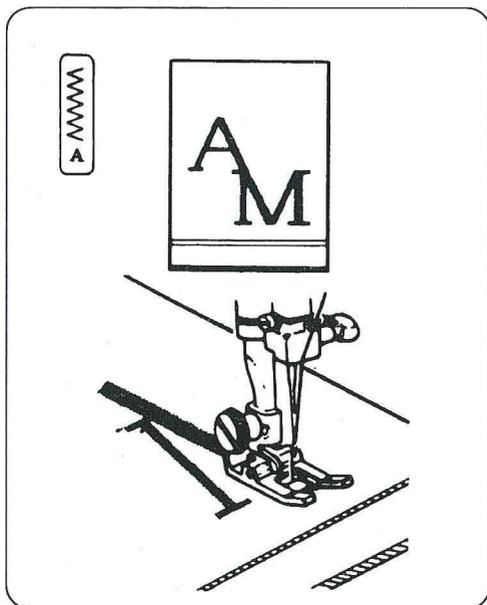
- 模様選択ダイヤル：Aに合わせます。
- 針基線レバー：
- 振り幅レバー：
- 送り調節ダイヤル：2から4に合わせます。
- 押え：サテン押えを使用します。

〈縫いかた〉

- 図のように外側のジグザグが布はしの上に落ちるように縫います。

サテン縫い

サテンステッチは縫い目のこまかい一連のジグザグステッチで図のようなモノグラミングやアップリケに使用します。



〈ミシンを合わせましょう〉

- 模様選択ダイヤル：Aに合わせます。
- 針基線レバー：
- 振り幅レバー：
- 送り調節ダイヤル：0から2の間に合わせます。
- 押え：サテン押えを使用します。

〈縫いかた—モノグラミング〉

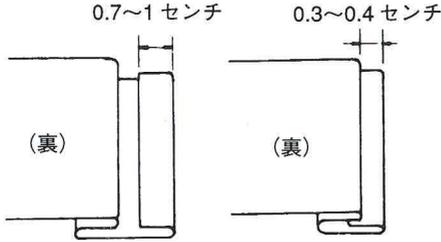
- 布地の下にうすく文字を描きます。
- 針の下に文字の中心を合わせて縫い、曲げるときには針をさしたまま曲げます。
- 糸を布地の裏に出して結び、切りそろえます。

まつり縫い（ブラインドステッチ）

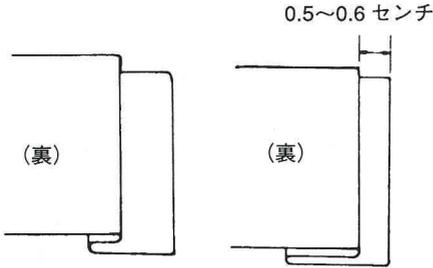
〈布地の折りかた〉

下図のように折ります。

●薄地の場合



●薄地および厚地の場合



布地の表に縫い目が見えないように縫う方法です。この縫い目はズボンやスカートのすそ、テーブル掛け、カーテンのはしの折り返しなどに利用できます。

〈ミシンを合わせましょう〉

●模様選択ダイヤル：Bに合わせます。

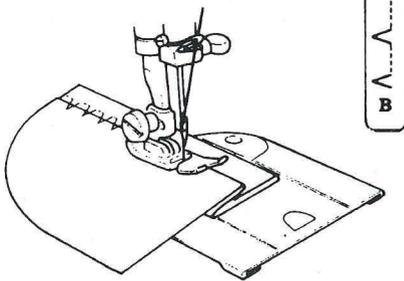
●針基線レバー：

●振り幅レバー：

●送り調節ダイヤル：1.5から2.5の間に合わせます。

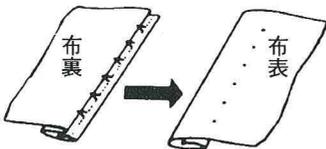
〈縫いかた〉

- 左に落ちる針が上の折り山にわずかにかかるように縫います。
- 上糸の調子をやや弱めにします。
- 左側に落ちる針が必要以上にかかりすぎると布が開かず、表面に出る縫い目が大きくなり、きれいに仕上がりません。

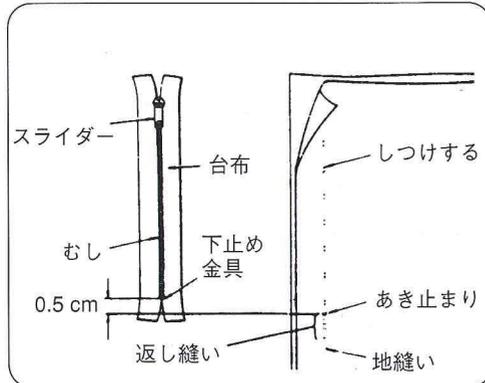
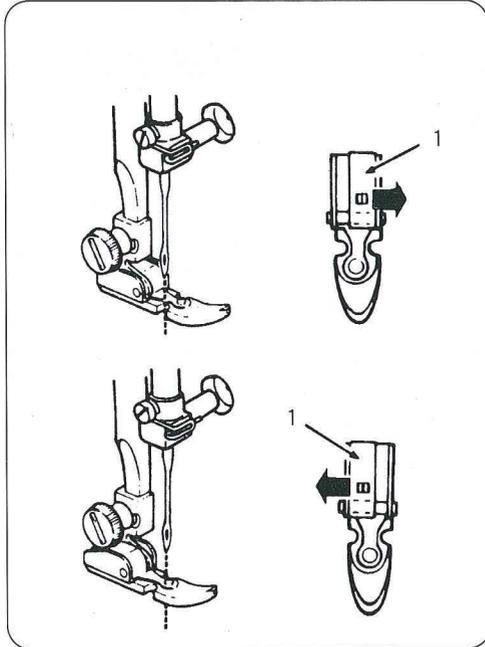
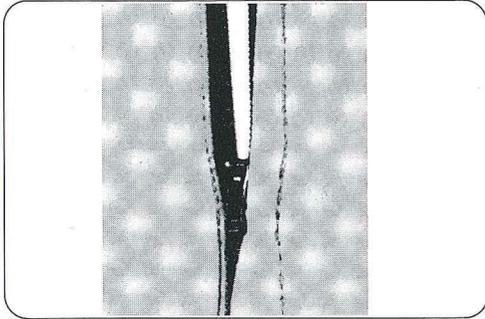


〈できあがり〉

●縫い終わったら布地を表にひろげます。



ファスナーつけ



〈ミシンを合わせましょう〉

- 模様選択ダイヤル：Aに合わせます。
- 針基線レバー：：
- 振り幅レバー：：
- 送り調節ダイヤル：2から4に合わせます。
- 押え：ファスナーつけ押えを使用します。

! 注意：ケガ防止のために；
 ファスナーつけ押えは必ず  だけでご使用ください。ほかの模様では、針が押えにあたり、針が折れ、ケガの原因になることがあります。

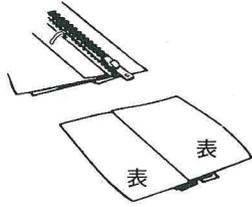
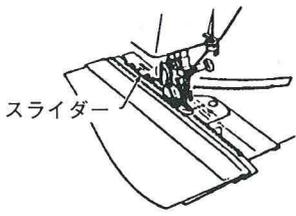
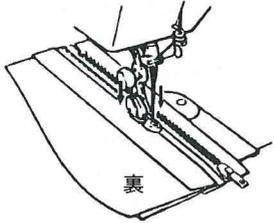
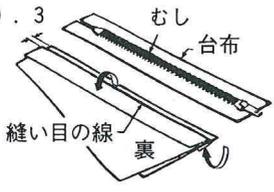
〈ファスナーつけ押えの取り付けかた〉

- ファスナーに右側を縫うときは、押えの調節ブロック(1)を右側いっぱいにはずして、押えのホルダーをピンの左側に付け、左側の溝に針を落とします。
- ファスナーの左側を縫うときは、押えの調節ブロック(1)を左側いっぱいにはずして、押えのホルダーをピンの右側に付け、右の溝に針を落とします。

〈準備〉

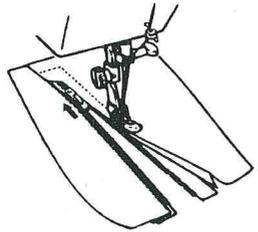
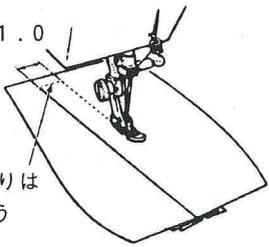
- 布を中表に合わせて、あき止まりまで地縫いをします。あき部分は、しつけをします。

0.2~0.3
センチ



0.8~1.0
センチ

あき止まりは
直角に縫う



〈縫いかた〉

●上の布の縫いしろを、縫い目の線で折り返し、下の縫いしろは、縫い目の線から0.2~0.3センチだして、下に折り返します。

●押えを、ピンの右側に取り付けます。布地の下にファスナーをおき、ファスナーのむしにそって縫います。

●押えがスライダーにあたる手前でミシンを止めます。スライダーをもとに戻し、布をひらいて、表にします。

●スライダーをもとに戻し、布をひらいて、表にします。

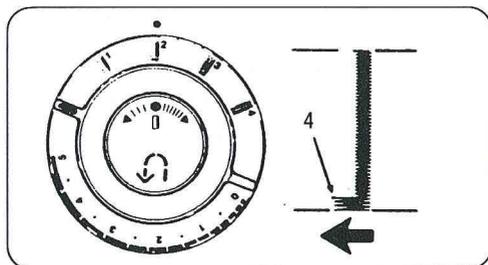
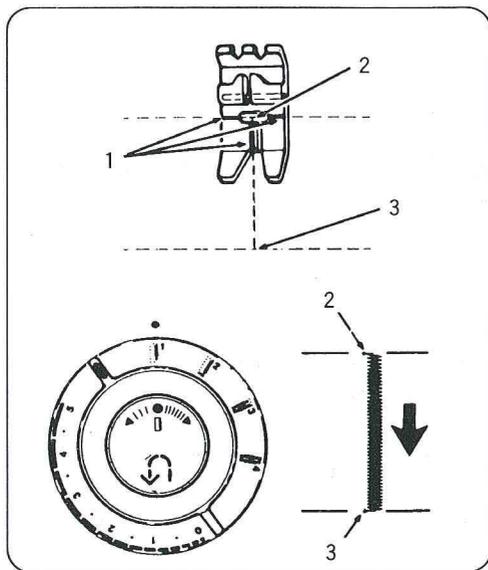
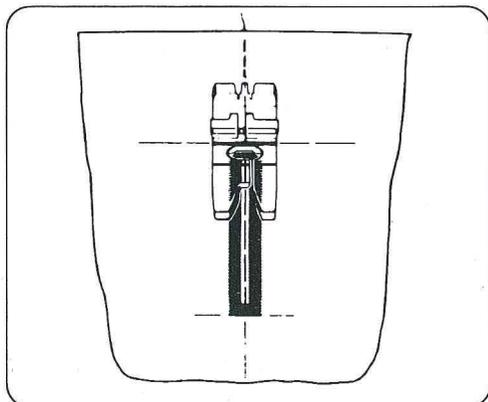
●押えをピンの左側につけかえます。ファスナーをつける上側の布地の折り山から0.8~1.0センチほど入ったところを縫います。

●押えが、スライダーにあたるすこし手前で、ミシンを止め、針を布地にさしてから押えを上げ、しつけをぼどいてスライダーを押えの向こう側へずらし押えをさげて、残りを縫います。

ボタンホール縫い

簡単な4つのステップでお望みのボタンホールを作ることができます。

- 送り調節ダイヤルをボタンホールマークに合わせたとき、各レバーは自動設定となり手動で動かすことはできません。



〈ミシンを合わせましょう〉

- 模様選択ダイヤル：Aに合わせます。
- ボタンホールダイヤル（送り調節ダイヤルの反対側）：各ステップにしたがって合わせます。
- 針基線レバーと振り幅レバー：ボタンホールダイヤルを合わせれば自動的にセットされますので合わせる必要はありません。
- 押え：ボタンホール押えを使用します。

〈準備〉

- ボタンホール押えを取りつけます。
- ボビンに十分糸があることをたしかめます。
- ボタンの大きさと厚さ、布地の種類に応じてボタン穴の長さをきめます。ボタン穴の直径+厚みをはかり、図のように布地にマークします。

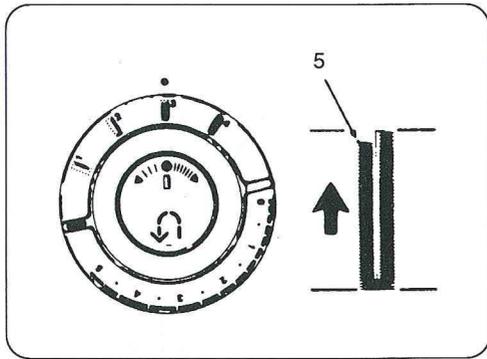
〈縫いかた〉

ステップ1

- 布地を押えの下におき、ボタン穴の始まりの位置の中心を、押えについている3本の赤いガイドライン（1）の中心に合わせます。
- ボタンホールダイヤルの1を・印に合わせます。
- はずみ車を手前にまわして（2）に位置に針を落とします。
- （3）の位置まで縫い、ミシンをとめ、針を上あげます。

ステップ2

- ボタンホールダイヤルの2を・印に合わせます。
- （4）の位置まで4～5針縫い、ミシンをとめて針を上上げます。

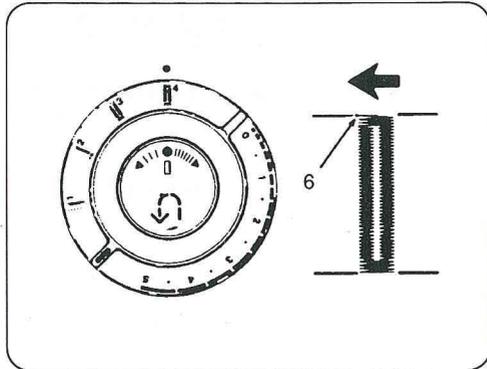


ステップ 3

- ボタンホールダイヤルの3を・印に合わせます。
- (5)の位置まで縫い、ミシンをとめ、針を上上げます。

ステップ 4

- ボタンホールダイヤルの4を・印に合わせます。
- (6)の位置まで4～5はり縫い、ミシンをとめ、針を上上げます。
- 送り調節ダイヤルを0に、振রি幅レバーをに合わせて2～3針とめ縫いをしてミシンをとめ、針を上げます。

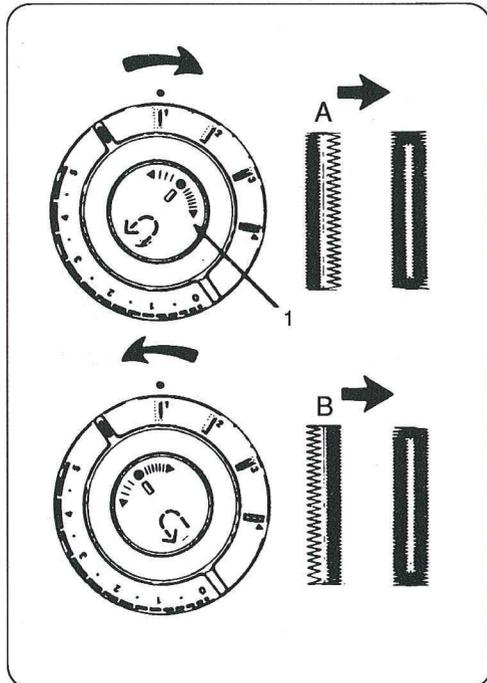
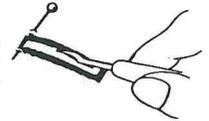


〈縫いおわりましたら・・・〉

布地を外して糸を切り、シームリッパーで縫い目を切らないようにボタン穴を切りひらきます。

なお、ボタンがボタン穴を自由に通るかどうかをたしかめてください。

かん止めのところにまち針を刺しておく、切り過ぎがありません。



⚠ 注意：ケガ防止のために；

シームリッパーで穴を開けるとき、リッパーの先端に手や指を置かないでください。すべったとき、ケガの原因となることがあります。

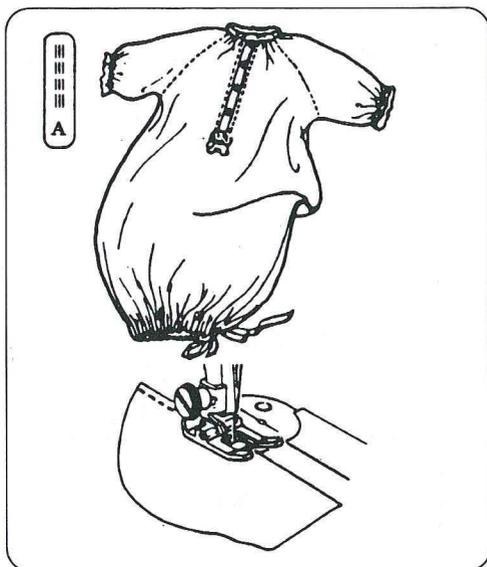
〈ボタンホールの調整〉

ボタンホールの左側と右側の縫い目長さのバランスがくずれた場合は、送り調節ダイヤルの中央にあるバランスつまみ(1)(返し縫いボタンと兼用)を次の要領で回して調整します。

- 右側の縫い目があらずすぎる場合Aは、バランスつまみをわずかに右に回します。
- 左側の縫い目があらずすぎる場合Bは、バランスつまみをわずかに左に回します。

伸縮縫い（ストレッチステッチ）

この縫い目は伸縮性があるのでニットやジャージなど伸縮性に富んだ布地の裁縫に適しています。また、この縫い目はひっぱられても糸が切れないため、とくに強くひっぱられるようなところ、たとえばズボンの股下や股上、肩はぎ、ポケットのはしなど丈夫に縫いたいところに最適です。



〈ミシンを合わせましょう〉

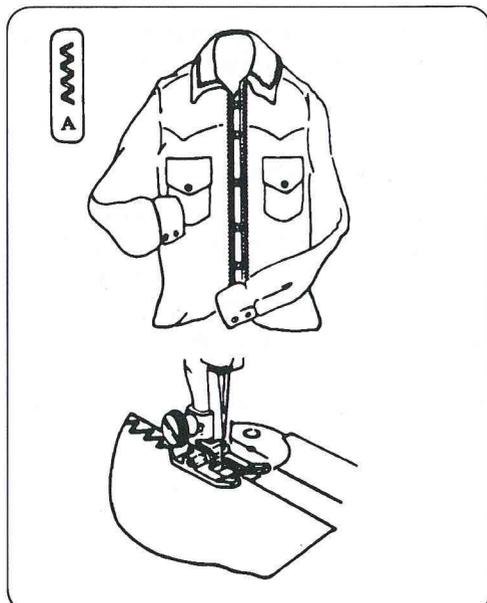
- 模様選択ダイヤル：Aに合わせます。
- 針基線レバー：
- 振り幅レバー：
- 送り調節ダイヤル：■印を本体の●印に合わせます。
- 押え：サテン押えを使用します。

〈縫いかた〉

- お望みの箇所をゆっくり縫い、布地の裏側に糸を出して結び、はしを切りすてます。

トップステッチ

リックラックステッチを使って衿、袖口、前立てなどに補強をかねた装飾縫いを行うことができます。



〈ミシンを合わせましょう〉

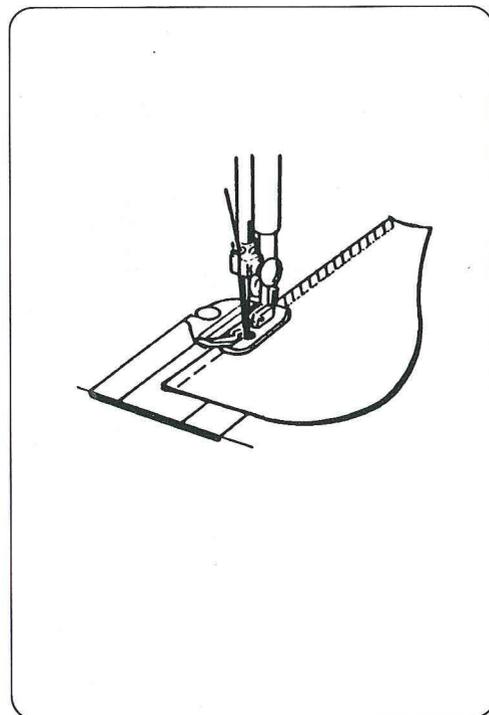
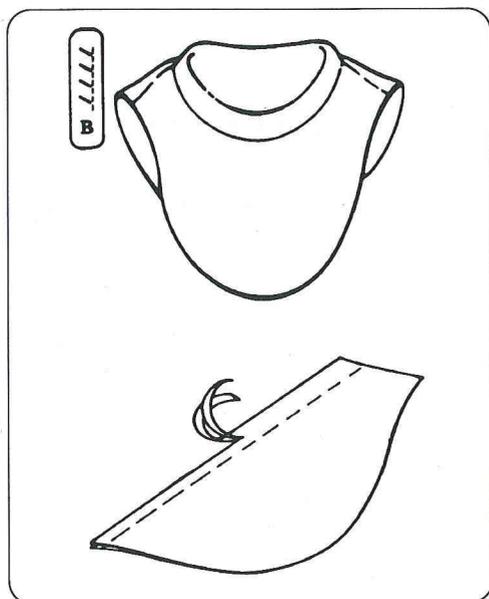
- 模様選択ダイヤル：Aに合わせます。
- 針基線レバー：
- 振り幅レバー：
- 送り調節ダイヤル：■印を本体の●印に合わせます。
- 押え：サテン押えを使用します。

〈縫いかた〉

- お望みの箇所に布地の表から低速で縫い、裏側に糸を出して結び、糸はしを切りすてます。
- 伸縮性布地を縫う場合はニット針を使うと目とびや糸切れを防ぎます。

装飾用縁かがり

スラントオーバーエッジステッチを使って補強を兼ねた装飾用縁かがりができます。



〈ミシンを合わせましょう〉

- 模様選択ダイヤル：Bに合わせます。
- 針基線レバー：
- 振り幅レバー：
- 送り調節ダイヤル：■印を本体の●印に合わせます。
- 押え：ジグザグ押えを使用します。

〈縫いかた〉

- しつけ縫いをします。
- 布はしがしつけラインから6mmになるように縁を切りそろえます。
- 直線ステッチがしつけラインに落ち、ジグザグステッチが縁に落ちるように縫います。
- しつけを外します。

フリーアーム縫い（筒もの縫い）

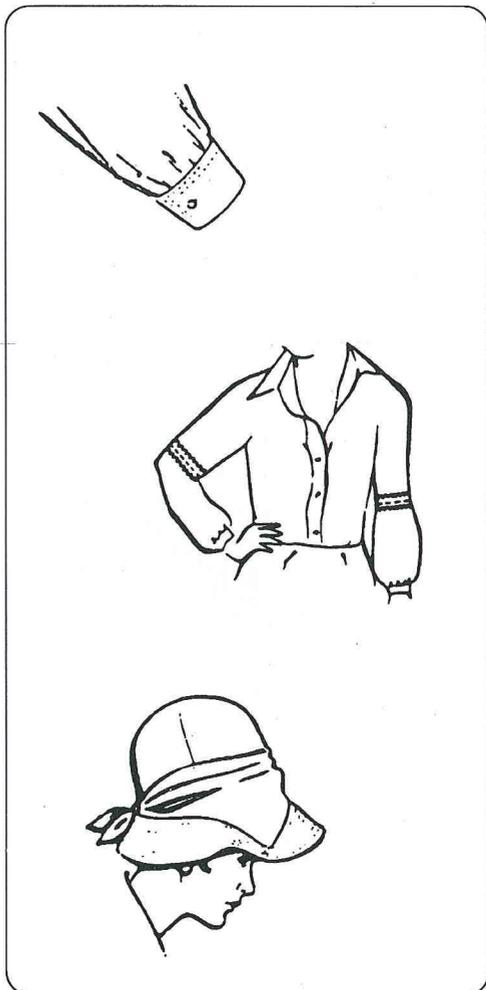
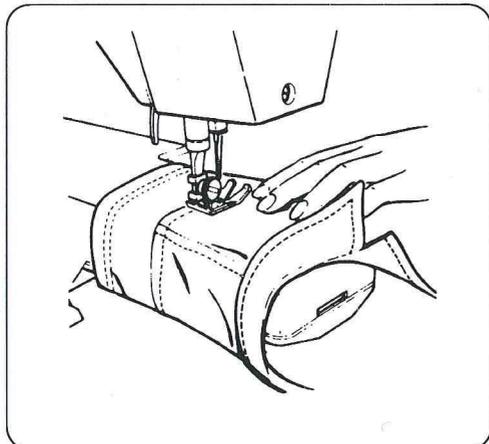
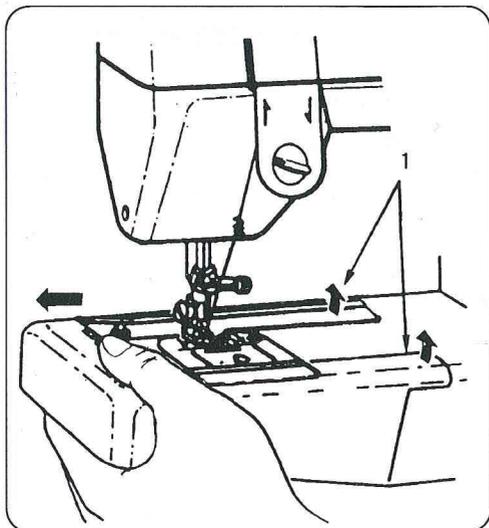
袖口やスリーブ、ズボンなど筒状のものや袋物など縫いにくいところを縫うのにフリーアーム（筒型ベッド）を利用すると布地の扱いが簡単になり、大変便利です。

〈補助ベッドのはずしかた〉

フリーアームにするときは、補助ベッドの右端（1）を持ち上げ、左に引いてミシンからはずします。普通の縫いにもどすときは、補助ベッドの上面をベッド上面と同じ高さに保ちながら右にずらしてタブを所定の位置にはめこみます。

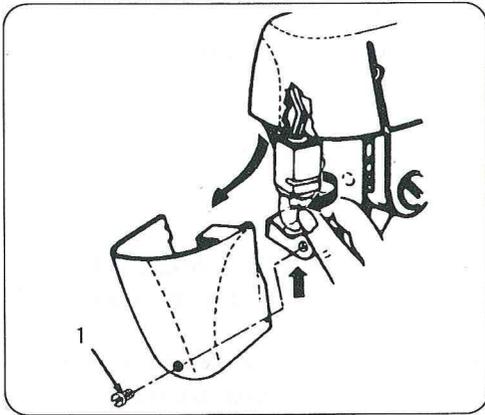
〈フリーアームはこんなところにご利用ください〉

袖つけ、袖口の飾りステッチ、ブラウスの袖の飾り縫い、帽子の縁飾りなどに・・・



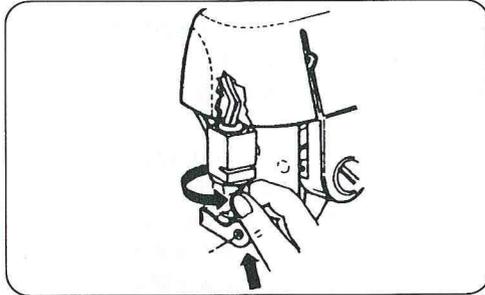
7. ミシンの手入れ (いつも調子よく)

⚠ 警告：感電、ケガ防止のために；
ミシンの掃除や点検の前には必ず電源プラグをコンセントからはずしてください。



〈面板のはずしかた〉

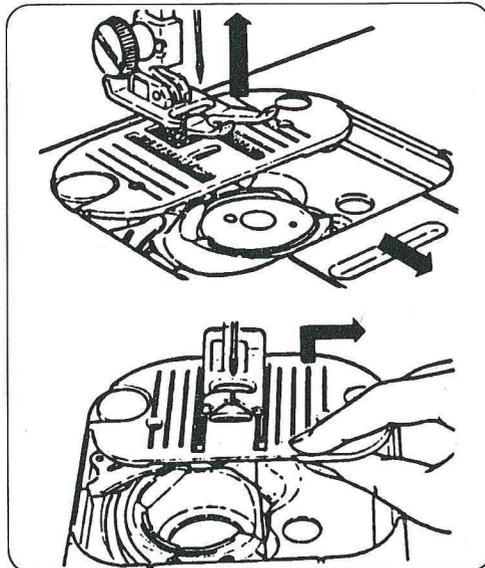
- 面板止めねじ (1) をゆるめてはずします。
- 面板の下端部をもって左下に引けばはずれます。



〈電球の取りかえかた〉

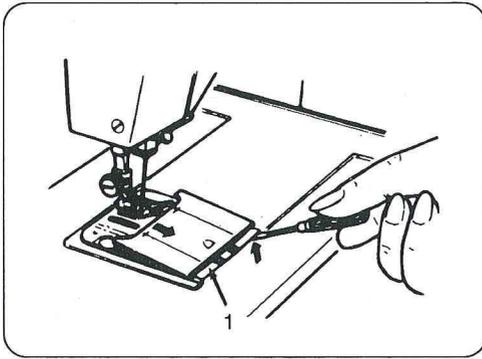
⚠ 警告：ケガ防止のために；
長時間使用しているとランプが熱くなり、やけどをする恐れがあります。電球を取りかえる前に電源プラグを抜いて、ランプが十分冷えてから交換してください。

- 電球を取りはずすときは、左に回します。
- 電球を取りつけるときは、100ボルト、15ワットのねじ込み式電球を使います。15ワット以上の電球は使用しないでください。



〈針板のはずしかた〉

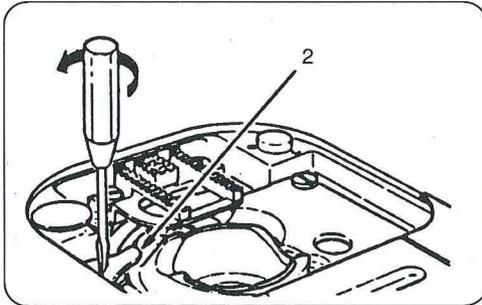
- すべり板をひらき、手前の右端を持ちあげてはずします。



〈すべり板の取り付けかた〉

すべり板を図のようにおき、支えバネ（１）の端をねじ回しで持ちあげてすべり板の裏側のみぞにかみ合わせるようにしながら手前に引きよせるとはまります。

（針板をはずしておくのと付けやすいです）



〈ボビンケースのはずしかたと入れかた〉

●はずすときは、まず針を上げ、すべり板をひらき、針板をはずします。

●ボビンケース止め板（２）のみぞにねじ回しをあてて止め板を矢印の方向にねじります。

●ボビンケースをもちあげてはずします。

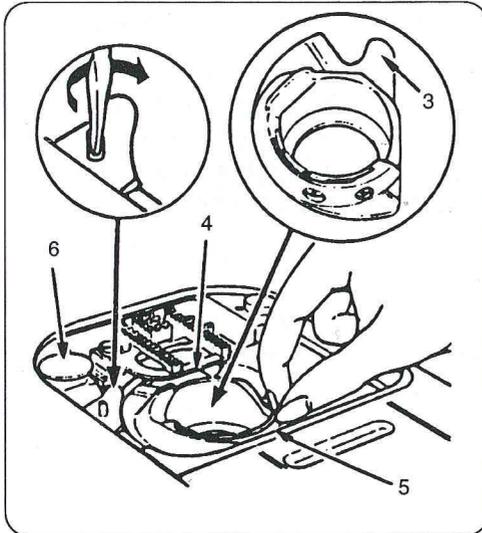
●入れるときには、ボビンケースの二又部（３）を送り（４）の下に入れます。

●ボビンケースのつばを押え板（５）の下に入れます。

●止め板（２）を手前いっぱい回してボビンケースを所定の位置に固定します。

●ボビンケースを入れた後、ボビンケースがきつくなかつたか動くことをたしかめてください。

●針板をピン（６）にさしこんで取り付けます。



〈掃除と注油〉



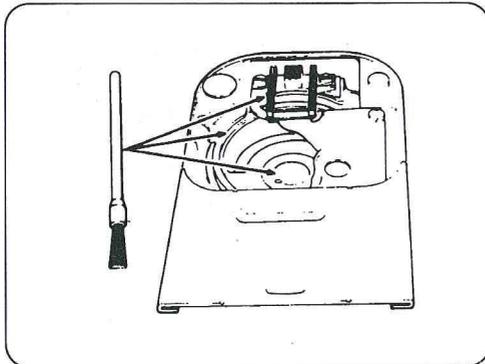
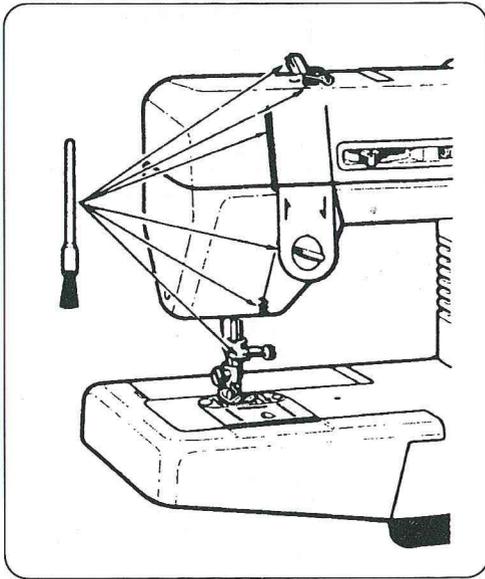
警告：感電、ケガ防止のために；

掃除前に必ず電源プラグをコンセントからはずしてください。

ミシンを長持ちさせるためには日常の手入れが大切です。一般には、一週間に一度、連続して使用するときには毎日、また長期間使用しなかったときはミシンを使う前に一通り掃除してください。

●掃除する箇所

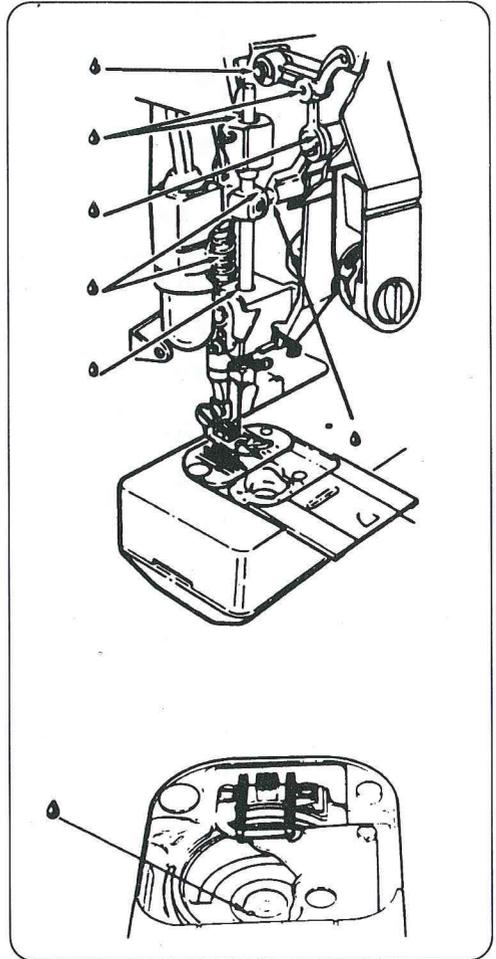
ミシン本体の汚れ、および図の矢印で示した個所にたまった糸くずやほこりを掃除してください。また、すべり板をひらき、針板をはずして送り歯やかまのまわりを掃除してください。



●面板内部の注油

面板を取りはずし、矢印のところに油をさしてください。

このミシンは特に注油の必要がありませんが数カ月以上ご使用にならないときは、下図の矢印のところに1～2滴油をさしておいてください。



8. ミシンの調子の悪い原因と点検のしかた

状態	原因	処置	参照ページ
布地の裏側がタオル地のようになるのは・・・	●上糸のかけかたがちがっているとき	正しく通します。	8
	●糸調子が弱すぎるとき		13
ミシンが動かないのは・・・	●ミシンのプラグがコンセントにさしこまれていないか、さしこみがあさいとき	しっかりさしこみます。	5
	●ミシンの電源スイッチが入っていないとき	スイッチを入れます。	5
ボビンに糸が巻けないのは・・・	●巻きはじめに糸巻きディスクをおしこまないとき	糸巻きディスクを押しこみます。	6
	●ボビンを右へ押してボビン押えに固定しないとき	ボビン押えに固定します。	6
ボビンを巻いている間に上糸が切れるのは・・・	●上糸が糸立て棒からスムーズにほぐれないとき	正しく通します。	6
	●ミシンに糸が正しく通されていないとき		6
針が折れるのは・・・	●細い針で厚地を縫ったり、細い針に太い糸を使ったとき	正しい針を使用します。	13
	●針の取りつけかたが悪かったり、曲がった針を使用したとき		12
	●布地を無理にひっぱったとき	手は布地が曲がらないよう添えるだけ。	—
	●針止めねじがゆるんでいるとき	ねじをしっかりとしめます。	12
	●針が布地にささっているときにダイヤルを動かしたとき	針を上げてダイヤルを回します。	10
	●押えがゆるんだりして針にあたったとき	押え止めねじをきつくしめます。	12
	●直線針板を使用してジグザグ縫いをしたとき	ジグザグ針板を使用します。	13
糸が切れるのは・・・	●上糸のかけかたがちがっているとき	正しくかけます。	8
	●針が曲がっていたり、先端がつぶれているとき	正しい針を使用します。	12
	●針が糸の太さとあっていないとき	糸にあった針を使用します。	13
	●上糸の調子が強すぎるとき	上糸調子をとります。	16
	●針の取りつけかたが正しくないとき	正しく取りつけます。	12
	●ボビンケースのまわりに糸くずやごみがたまっているとき	掃除をします。	31
	●糸巻きのつばについている切り溝を左側にセットしたとき	切りみぞを右側にします。	6

状態	原因	処置	参照ページ
布地を送らないのは・・・	●糸巻きディスクがおしこまれたままになっているとき	平らにもどします。	6
	●送り調節ダイヤルの指示線が0の位置にあるとき	ダイヤルを1の方へ回します。	14
	●針板と送り歯の間にほこりがついているとき	掃除します。	31
縫い目がとぶのは・・・	●ボビンがボビンケースに正しくはいっていないとき	正しくいれます。	7
	●針が曲がっていたり、針先がつぶれているとき	正しい針と取りかえます。	12
	●針が糸の太さと合っていないとき	糸に合った針を使用します。	13
	●上糸のかけかたがちがっているとき	正しくかけます。	8
	●針が正しく取り付けられていないとき	正しく取り付けます。	12
	●伸縮性のある布地を縫うときにニット化繊用針を使わないとき	ニット化繊用針をお使いください。	—
布地が縮むのは・・・	●上糸の調子が強すぎる時	上糸調子をとります。	16
	●布地に対して糸調子が強すぎる時		16
	●上糸のかけかたがちがっているとき	正しくかけます。	8
	●布地に対して縫い目が大きすぎる時、または小さすぎる時		13
ミシンの回転が重い、音が高いのは・・・	●油がきれいになっているとき	注油します。	31
	●送り歯にごみがたまっているとき	掃除します。	31
	●かまの部分に糸くずが巻きこまれているとき		31

この項目に記載されている項目以外の不調または部品の交換、電気系統の故障の修理サービスは、ご購入店又は「お客様相談係」(裏表紙参照)におたずねください。

ミシンの仕様

定格電圧	100V
消費電力	75W
周波数	50Hz/60Hz
ランプ定格	15W/100V
寸法	幅：394mm×高さ：300mm×奥行き：173mm
重量	7.9kg

ミシンの取り扱い

- シンナーやベンジンなどでふかないでください。
汚れたら、やわらかい布に中性洗剤を少し含ませて、よくふき取ってください。
- 直射日光にあてたり、高温多湿のところには置かないでください。
- 低温の場所から出したときは、普通の温度になじむまで、しばらく置いてください。時間がたてば正常に作動するようになります。
保管は、なるべく寒いところをさけてください。

修理サービス要領

●修理サービスのご相談

1. このミシンのご購入者には、ご購入日から1年間の「無料修理保証書」が発行されます。内容をよくお確かめの上、大切に保存してください。
2. 修理サービスは無料保証期間内および期間経過後も原則としてご購入店が承りますので、ご相談ください。
3. 修理サービスについてお問い合わせやご不審のある場合は、別掲の各地区にある「お客様相談係」宛お申し越し下さい。

●修理部品の保存と供給

動力伝達機能部品および縫製機能部品のうち、交換修理に必要な部品は、ご購入の日から通常8年間は必要に応じて当社よりご購入店に供給できるよう体制を整えております。

●無料修理保証期間後の修理サービス

1. 使用の手びきに基づいて正しい使用とお手入れがされていれば、無料保証期間を経過しても修理用部品の供給可能期間中は、ご購入店を通じて有料で修理サービスをいたします。ただし、次に該当する場合は、有料でも修理できない場合がありますので、ご購入店にご相談ください。
 - イ. 保存上の不備または、誤使用により不調、故障または損傷したとき。
 - ロ. 浸水、冠水、火災など天災、地震により不調、故障または損傷したとき。
 - ハ. ご購入後の移動または輸送によって不調、故障または損傷したとき。
 - ニ. ご購入店または当社の指定する販売店あるいはサービス店以外で修理分解または改造したために不調、故障または損傷したとき。
 - ホ. 職業用として無理なご使用により不調、故障または損傷したとき。
2. 長期間にわたってご使用されたミシンの精度の劣化は修理によっても元通りに修復できないことがあります。
3. 有料修理サービスの場合の費用は、別に定める必要部品代金、交通費および技術料の合計額となります。

140年以上も家庭用ミシンを作り続けてきたシンガーは迅速で正しいサービスをモットーとして全世界のご家庭にお届けいたしております。

SINGER
シンガー

Part No. 378936-001 (0396)